



元 経済産業大臣・法務大臣・農林水産大臣 自民党千葉県第七選挙区支部長 衆議院議員

月刊 さいとう健けん

LIBERAL & DEMOCRATIC

自由民主

発行所: 自由民主党本部 定価1部110円(税込) 毎週火曜日発行
住所: 〒100-8910 東京都千代田区永田町1-11-23
電話: 03-3581-6211(代表) ホームページ: <http://www.jimin.jp/>

＜ ミニプロフィール ＞

昭和34年、小さな写真屋に生まれる。

大学時代は、ハンドボール部のキャプテンとして活躍。

零細企業に育ったこともあり、中小企業を担当する通商産業省に入省。
日米交渉や道路公団民営化、地方行政(埼玉県副知事に outward)などに携わる。

平成18年衆議院千葉七区補欠選挙にて公募により選ばれるも、惜敗。

平成21年衆議院総選挙において、初当選。6期目。環境大臣政務官、
党副幹事長、党農林部会長、農林水産大臣、党総務会長代理、法務大
臣、経済産業大臣を経て、現在、予算委員会筆頭理事として重責を担う。

〔趣味〕ハンドボール、カラオケ、読書、映画

〔好きな食べ物〕ラーメン、焼肉(特にカルビとハラミ)

〔尊敬する人物〕高杉晋作、原敬、鈴木貫太郎

新年号

令和8年1月10日発行

「令和8年を迎えて」

新しい年を迎え、皆様いかがお過ごしでいらっしゃいますか。
私ごとになりますが、最初に出選に出させていただいて、
今年でちょうど20年の節目を迎えます。もっとも当初3年
4か月は浪人生活でしたが。

振り返りますと、この間の皆様のご支援をもちまして、
衆議院当選6回、大臣も農林水産大臣、法務大臣、経済産業
大臣と務めさせていただき、充実した政治活動ができており、
感謝の言葉もございません。

現在は、衆議院の花形委員会である予算委員会の与党の
責任者を務めております。予算委員会は、限られた時間の中で、
政府が提出した予算案を通すというのが仕事であります、
以前とは異なり、与野党の勢力が伯仲する状況での仕事と
なりますので、なかなか厳しいものがあります。

昨年12月には、一般会計総額が18兆3034億円にも上る2025
年度補正予算案の成立に汗をかきました。冷や汗でしたが(笑)。

予算案の中身は、これまでにない物価対策に加え、成長
分野への積極的な投資促進を政府が先頭に立つて行うとした
ところが目を引くところで、将来の国民生活の向上にまで
つながっていくことを、さいとう健は期待しています。

実は、昨年11月7日に高市総理就任後初めて開催された
予算委員会でさいとう健は、全政党のトップバッターとして
質問に立ちました。

物価対策については、多くの同僚議員も質問するので、
さいとう健は、あえて総理に対し「EUにも中国にも負けない
個別の産業の競争力強化」、



予算委員会のトップバッターとして
高市総理に成長戦略について質問。



初石駅橋上化で新たに東口が誕生。
今後は駅前の整備も進められます。



豚汁を食べながら、皆様を感じる
政治へのご意見をお伺い。

「映画、アニメをはじめとしたコンテンツ産業の海外展開の政策支援強化」、「経済成長をけん引するスタートアップ企業の積極支援の重要性」、「米中の板挟みになっている東南アジアをはじめとする国々との連携強化」などについて見解を求めました。

また、さいとう健のライフワークである書店振興についても、高市総理の見解をたどりました。

内外ともに大きな変革期にある今、日本の将来のために何ができるのか、新たな年を迎え、さいとう健はこれからも全力で様々な課題に取り組む決意を新たに致しております。

立党70周年プロジェクト

「自民党新ビジョン策定本部起草委員会」座長に就任

自民党は、昭和100年、戦後80年である昨年11月15日、立党70年を迎えました。

党内に『立党70周年プロジェクト「自由と民主主義を次世代につなぐ自民党新ビジョン策定本部」(本部長:鈴木俊一幹事長)』を立ち上げ、新ビジョン起草委員会の座長にさいとう健が就任しました。

自民党が置かれている現状とこれまでの歩みを振り返り、これからも「国民政党」であり続けるために党が目指すべき道筋を改めて明らかにしたい、との目的で、党員のみならず、広く国民、有識者にも意見を求めたいと思っています。

厳しい状況にある自民党は、今後どうあるべきなのかを問う、大変重い作業の責任者ということになりますが、激動する社会・世界情勢の中、歴史の転換期にある今こそ、自民党の真価が問われていると認識し、3月15日に予定されている自民党定期大会での発表を目指し取りまとめを進めていきます。



失われた信頼と期待を取り戻すべく、
自民党新ビジョンを策定します。



流山高等学園の椅子は可愛さだけでなく、
収納の機能美も備えています！



3B体操に飛び入り参加♪
全ての世代で楽しめる健康体操☆



あさねぼう観音の紙芝居を拝見。
観音様も寝過ぎちゃうんですねw



大玉渡しに奮闘！こうした交流が
非常時の地域力として発揮します。



森のマルシェ・ド・ノエルが年々拡大！
地元愛が溢れるスタッフに感謝。

メルマガ **さいとう健**

名前・住所の登録不要。

月刊さいとう健では伝えきれない内容満載。

返信すれば匿名で意見を伝えられます。

<http://www.saito-ken.jp/info/melmaga.html>



討議資料

～ 後援会入会はコチラまで ～

さいとう健 後援会事務所(流山おおたかの森駅 北口すぐ)

〒270-0119 流山おおたかの森北1-5-2セレーナおおたかの森2階

TEL: 04-7190-5271 FAX: 04-7190-5272 E-mail: info@saito-ken.jp

さいとう健 国会事務所

〒100-8981 千代田区永田町2-2-1衆議院第一議員会館822号室

TEL: 03-3508-7221 FAX: 03-3508-3221

下野と同じ危機感を

2009年の衆院選で自民党は大敗し、2度目の下野をした。この選挙で初当選した斎藤健元経済産業相は当時、自民復活のために必要なことは何かを探ろうとオランダに向かった。昨秋の衆院選に続き今夏の参院選でも与党過半数割れの大敗を喫した今、下野と同じくらいの危機感を持つべきだと警鐘を鳴らす斎藤氏に当時を振り返ってもらい、再建への取り組みを聞いた。【聞き手・森口沙織】

自民党 70年 インタビュー

初当選してすぐに与謝野馨さん(正官房長官)から「長期政権が下野し、復活した海外の例を調べてほしい」と指示を受けた。自民は大敗の後で、復活するために取り組むべきことは何かを探していた。

海外の事例を調べる中、76年間政権を握り1994年に下野したオランダの政党「キリスト教民主勢力」(CDA)のケースにたどり着いた。野党だったのに、外務省には頼らずに個人的なつてを使い、オランダの関係者を紹介してもらった。10年春にオランダへ行き、

斎藤健元経済産業相 国政選挙連敗に警鐘



インタビューに答える自民党・斎藤健元経済産業相＝東京都千代田区で11日、吉田航大撮影

1週間かけて政府関係者や学者に話を聞いて、報告書をまとめた。

CDAと自民には共通点があった。まず、CDAは長期政権で、いわゆる業界団体や高齢者、農家、地方の支持が厚かった。下野した94年前後は欧州通貨統合に向けた影響で財政規制が厳しくなり、業界団体への予算カットで団体の支持離れが起こった。年金改革や市町村合併により支持基盤が揺らいだ。

さらに伝統的なキリスト教文化も世俗化が進んだことで、浮動票が増えて党の求心力が落ちていた。

コミュニティへの帰属意識が薄くなり、政治家自身が人々を説得できるような魅力的な人間でなければ票が取れない状況は、日本と共通していた。

CDAは野党時代、支援団体や地方との関係の見直しと強化、政

策・イデオロギーの見直しを徹底した。40代の若手を登壇に迎え「党が変わった」とアピールした。台頭してきたポピュリズム政党の主張を否定せず、彼らより穏健な主張をすることで幅広い受け皿となり、02年に政権復帰を果たした。

オランダの関係者の話で一番印象に残っているのは「ポピュリズムへの対応なくして選挙の勝利はない」という言葉だ。ベトナムキともいえるポピュリズム的主張をしていた民主党に当時の自民は負けたが、今後はポピュリズムと無関係ではいられないことを痛感した。

自民は結党以来、93年に初めて下野し、16年後の09年に再び下野した。そこから16年後の今年も危機に直面している。十数年の周期で与党のおどりが表面化し、政権に対する有権者の「飽き」が生じ、新たな政権を求める機運が高まる。直近では参政党の躍進もその傾向の一つではないだろうか。

CDAのライバル政党幹部は「野党の時代は、イデオロギーや政策を練り直すいい機会だ。社会に波長を合わせて、新しい政策を追求する好機だ」と強調していた。高市早苗首相の人気は高いが、自民にとって状況は厳しい。そこを見誤ってはいけない。衆参二つの国政選挙で敗北しながら下野しなかった自民は、党が変わる機会を逃した不完全燃焼状態ともいえる。

自民がもう一度信頼され支持される政党になるためには、下野と同じくらいの危機感で自分たちを見つめ直す必要がある。

内閣 総理大臣	斎藤 健
外務大臣	小淵優子
財務大臣	加藤勝信
経済産業大臣	片山さつき
農林水産大臣	小野寺五典
防衛大臣	長島昭久
内閣官房長官	小泉進次郎
自民党幹事長	林 芳正

落選中だが外国人政策に一家言ある木村義雄元厚生労働副大臣には厚労相を任せたい。エネルギー問題への知見が深い猪瀬直樹参院議員は環境相として大いに活躍してくれるだろう。泉房穂参院議員や元総理補佐官の矢田稚子氏、チームみらい党首の安野貴博参院議員も入閣させるべきだ。

連立拡大で、国民民主党、日本維新の会を取り込むことになるだろう。玉木雄一郎代表、藤田文武共同代表にもポストを提示し、上手く使わなければならない。その他の両党の議員も政府に入って仕事をする必要があるだろう。

国際情勢を見れば日本がどう生き残るかを真剣に考えないといけない。全体主義的な中露両国にどう向き合うか。斎藤内閣には針路をしっかりと打ち出してもらいたい。

私が考える「救国、内閣」

挑戦する経済 この人に期待！

ジャーナリスト 田原 総一郎



一九九〇年代以降、日本は全くチャレンジをしない社会になってしまった。日本をライバル視したアメリカによって叩き潰され、経済は劣化し続ける。経営者は失敗しないことばかり気にして、投資や技術開発から逃避する。組織は高齢化、硬直化するばかりだ。いい加減、変わらなければいけない。令和元年以降、衆院議員の村井

英樹氏を事務局長に自民党の若手議員と官僚らが「プロジェクトT」と名付けた勉強会を始めた。Tは僕の名前の頭文字から取ったそうだけれど、民間からは元経済産業審議官でN.T.T副社長の柳瀬唯夫さんやドワンゴ社長の夏野剛さんが、政治家では斎藤健氏や西村康稔氏がさまざま助言し令和二年に報告書をまとめた。その過程

で斎藤氏には日本の危機を回避し、経済を再び挑戦的に変えようとする強い思いを感じた。石破茂総理には期待したが、少数派な事から気を遣いすぎて結局やろうとした事が出来なかった。しかし斎藤氏ならやれるのではないかと考えている。何より彼にはビジョンがある。現実の政局を考えても、バランス感覚があつて、野党からも信頼されている。「カネ」の問題もクリーンだ。党を柔軟性がある林芳正氏に任せれば、政権の骨格は固まるだろう。

小泉進次郎氏は各種調整を担う官房長官で修行をするのが良い。外務大臣には対中関係などを踏まえ小淵優子氏に任せたい。議論に強い片山さつき氏、党農業基本政策検討委員会の委員長経験がある小野寺五典氏にも期待したい。